



沼津宿 原宿から1里半 名物 かつおぶし

本陣3、脇本陣1間屋1、旅籠55、町並み東西14
中世は漁村、蓼草の茂った洲落で蓼原と呼ばれていた。
南北に三枚橋、車返し(蓮光寺辺り)があった。元禄以前は三枚橋が宿場、元禄元年(1688)沼津宿と改名される。漁港、狩野川河口の港町、そして城下町として栄えた。川郭通り辺りから江尻へ海上7里の船便があった。



城岡神社・沼津兵学校

もと二の丸あったところ。
文政7年(1824)沼津城主水野忠成が社殿建立。
11代将軍家齊が伏見稲荷の宇迦之御魂稚神を勧請。お稲荷さんとして親しまれる。明治になって旧幕臣達が心の寄りところとして東照宮を勧請、相殿とした。明治36年城岡神社と改称。明治維新後府中藩によって"沼津兵学校"(徳川家兵学校)が設けられるが廃藩置県で廃止になる。



沼津城(三枚橋城)

文明11年(1479)北条早雲が築城、三枚橋城とした。又、天正7年(1579)武田軍の高坂昌宣が築城ともいわれる。天正11年に松平氏、天正18年には中村一栄(一氏の弟)が入った。慶長5年(1600)関が原戦後大久保忠佐が千葉茂原より入城するが跡継ぎがなかったので封除となり廃城となる(慶長19年(1614))。安永6年(1777)水野忠友が沼津城として築城する。以前の三枚橋城の北側半分を利用したもの。慶応4年(1868)水野氏の転封により府中藩所属になる。



伏見一里塚

蓮光寺(臨済宗)車返しの坂

"車返し御所"の旧跡
北条時頼入道が巡国とき在留したという。鎌倉7代将軍惟康公が身延詣でするときこの坂を越えられず歩いて行ったので「車返し坂」の名がついたという。寺東、農業会館の間の道といわれる。

鎌倉時代この辺り宿場

海道記に「木瀬川の宿に泊まりて萱屋の下に休す」とある

平作地蔵尊

浄瑠璃「伊賀道中双六」千本松原の場面
この地で娘に茶屋をさせていた平作は、娘の夫の渡辺数馬のために20数年前に分かれた自分の息子十兵衛から数馬の仇敵河合又五郎の居所を、自害して聞かす。数馬は義兄荒木又右衛門の助けを得て仇討ちを果たす。「仇討ち」鍵屋の辻の決闘



沼津藩領榜止杭(酒)

潮音寺
亀鶴之碑
亀鶴姫の悲話残石

千本松原

古くから沼津一田子の浦にかけて松原が続いている。武田勝頼は北条との戦いのときに戦いの邪魔になるといって伐採。後に乗運寺の増替上人が植えたという。

六代松の碑

壇ノ浦の戦いで敗れた平氏、平惟盛の長子六代は北条時政によって捕らえられこの地で処刑されようとしたが文覚上人によって助けられ、出家、妙覚を名乗り、文覚上人の謀反に加担し処刑される。天保年間まで黒松があったという。天保12年(1842)六代御前を偲ぶ松と書かれた碑が建つ。六代は清盛が三代、重盛、五代の惟盛と続くことから。



[弥次・喜多]

宿東の大岡は平安時代大岡庄、藤原師道の領地。釜ヶ淵にきて「名をきいてほしやこがねの釜ヶ淵くちに孝行したゆへには」宿西外れの茶屋で一休み後千本松原に来て「この景色見ては休にやならい坂いざたばこにや千本松」茶店で知り合った侍に「印伝の巾着」100文で買ってもらい路銀に。

城岡神社

沼津兵学校

沼津城本丸跡

平町

黒瀬橋

玉砥石

一里塚跡

御成橋

狩野川

永代橋

浅間神社

増替上人像

千本常盤

聖隷沼津病院

本光寺

首塚

川廊通り

東急ホテル

ホテル前に石垣一部復元



首塚

明治33年(1900)の台風で倒れた松の根元から多数の人骨が発見される。これを供養した塚。調査により天正8年(1580)武田と後北条による「千本松原の戦い」の戦死者のものと思われる。



八幡神社(頼朝と義経の対面の地)

治承4年(1180)10月源頼朝は平家追討の富士川合戦のためここ黄瀬川八幡の地に本宮を構えた。兄頼朝の挙兵支援のために遠く奥州から駆けつけた義経と対面した。境内に対面のときに腰掛けた"対面石"。その時植えたといわれる"ねじれ柿"が残る。社殿は足柄越えの西向きであったが家康が天正11年(1583)箱根越え街道の南向きに变え、社領20石、神刀を寄進する。